

## 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2020年2月21日

所属：国際資源学部 国際資源学科 資源政策コース 4年

氏名：佐々木一路

派遣先大学名(国) ブカレスト大学(ルーマニア)

在籍身分：留学

派遣期間：1年

渡航年月日：2019年2月14日

帰国年月日：2020年1月20日

### ○派遣先大学における授業等の履修状況

1st セメスター (2019, 2~2019, 6)

1. Introduction to study of international relationship
2. EU Governance: Theories and practices
3. Politics and society in 20 century Europe
4. Statistics
5. English for political science
6. Texte panaitescu(他学部のため未履修)

2nd セメスター (2019, 10~2020, 1)

1. Texte panaitescu 2<sup>nd</sup>(他学部のため未履修)
2. Introduction for political science
3. Engleza pentru stiinta politica
4. Global Justice
5. Texte panaitescu 1<sup>st</sup>(他学部のため未履修)

\* 各授業3時間

### ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

主にヨーロッパ政治の歴史や国際関係について学びました。私の学部の授業では基本的に政治学者の論文やスピーチを予習します。その授業スタイルは大きく分けて3つあります。

1つ目は実践的な思考力をつける授業です。授業前の予習を理解した上で、全体でディスカッションすることが多かったです。社会科学学部なので、その内容は政治的なト

ピックをただ話すのではなく、どのように問題を解決すればいいのか？その仕組みをどのようにするのか？などを話しました。ブカレスト大学の社会科学学部にくる日本の留学生は、日本の大学でも政治を専門的に学んでいた学生と、私の学部のように広く多くのことを学んでいる学生で分けられます。どちらの学生でもこのスタイルの授業は困難でした。英語で授業を聞いて理解できるようになります。しかし、先生がトピックを頻繁に変えるため一貫性のない移り変わるディスカッションを理解して参加するには、高い英語力と教養が必要でした。しかし、この授業への参加はとても刺激的でいい成長ができました。

2つ目は国際関係や社会科学についての教養を身につける授業です。この授業では基本的に先生が仕組みを解説してくれます。それを聞いて必死に理解する授業です。予習はある授業とない授業がありました。この授業の国際関係では、ルーマニアとその他の国の関係、またはルーマニアを含めた地域での政治的歴史の変動を学びました。予習のない授業では先生が口頭で説明するだけなので、留学生はインターネットを使いながら、または友人の助けを受けていました。

3つ目は一般教養になる授業です。統計学やコンピュータースキルなど、社会科学の研究で使われる基礎スキルの授業がありました。授業の中では正しいデータ処理のやり方や、必要な情報をどこから探せばいいのか？など、今後の学生生活のために必要な知識を学びました。

私はルーマニアを知る中で、食料について興味のあるトピックが生まれました。そして授業を通して政治的、歴史的観点からさまざまな関係性が見えてきました。今後私の研究室でこれに関して深掘りし、もし可能であれば、これについて卒業論文を書きたいと考えています。そして、これを通じて今後もルーマニアや国際的な現場に積極的に参加していきます。

## ○生活面について

私は日本を出る前はルーマニアにネガティブな印象を多く聞きました。しかし、実際行ってみるととても治安の良い国でした。数年前までのルーマニアは日本人にとって危険なことが多かったそうですが、大きく変わり始めています。学生や現地の人も親日の人が多く、とても親切にしてくれました。日本語の私塾もあり、ラジオを聞けば日本についての話題をよく聞きました。日本人が経営している、日本食チェーン店も多くありました。特に寿司屋さんの店舗の種類が多くあり、常に人気でした。ブカレスト大学にも日本語学科があります。そこで日本語を学ぶ現地の人たちと交流できます。一年に何度か、日本語学科主催の日本文化祭があります。私たちも一緒に参加することができ、現地の人たちともさまざまな話ことができました。日本文化に触れ、それを楽しむルーマニア人を見ていると愛国心のようなものを感じ始めました。

そして、ルーマニアでの生活はすべてにおいてコストパフォーマンスが良かったです。

学生寮も光熱費などすべて込みで 9000 円ほどです（後期になってから 6,500 円ほどになりました）。一日の食費も 500 円あれば十分です。1 食を 100 円で済ますこともでき、学生寮近くの売店ではできたてハンバーガーを 300 円で食べられます。地下鉄も 1 トリップ 70 円で乗り放題です。バスやトラムも 30 円でどこへでも行けます。国内旅行の鉄道も学生なら無料で乗ることができます（大学から STUDENT PASS の発行が必要）。とにかくお金がかかりません。むしろ安いと調子に乗って無駄遣いすることがありました。近くのスーパーで好きになったチューイングキャンディが本当に美味しかったです。ドイツ製でした。ルーマニアには、ルーマニア製のお菓子はあまり売っていません。個包装のお菓子も売っていませんので、日本の便利さを感じました。

外食は 1 食にかかる値段が日本と同じくらいでした。友人と遊びに行くときや、デートする前にはリーズナブルな価格の場所を探すことが大変でした。ルーマニアでの遊びやデートは基本的にカフェか公園を散歩しながらお喋りすることです。どこか質素ですが、平凡な幸せを感じます。シンプルに文化交流や英会話ができるので良い機会でした。娯楽が本当にない国なので、私も現地の人たちのように一学期の前半だけランニングする習慣がありました。食事が日本よりはるかに肉食だったので良い運動でした。

### ○その他留学全般にわたる感想

ブカレスト大学への留学は本当に楽しかったです。私は留学に行く 1 年前まで日本ですっと暮らそうとしていました。しかし、留学生活を終えた今はまたルーマニアに戻りたいという気持ちでいっぱいです。日本と違ってまだ途上国であるため、不便なことや文化の違いに何度もぶつかりました。その度に必死に解決するために奮闘しました。危険なことにも遭遇しました。それでもまた戻りたいと思います。

ルーマニアの社会性は私に合っていたと思います。ルーマニアに留学して、辛くて途中リタイアした人の話を聞きました。それは秋田大学でも現地の日本人コミュニティーでも聞きました。そして実際に現地で気持ちが辛くなって一時帰国した友人もいました。そのような先行したネガティブな印象はありますが、私はもっと多くの人にルーマニアの良さを体感して欲しいです。ルーマニアの良さを語るのは難しいです。実際に行って、現地の人たちと触れ合い続けて初めて実感できる優しさがあります。本当に行動し続けなければ分からない良さなので、これから留学したい学生には、多くのことに飛び込み続けて欲しいです。

ルーマニアではさまざまところで貴重な経験をしました。まず、Facebook を使えば毎日多くのジャンルのイベントが開催されています。私は内容を問わず、多くのイベントに参加しました。そのおかげか、多くのことに興味が広がりました。ブカレストで見聞を広げる活動は容易にできます。移動費も格安に済むので問題なく参加できます。携帯の SIM カードはさらに安いです。毎月リチャージャで 1 ヶ月 50G を 1000 円で買えま

す。このおかげでインターネットの心配もありません。ルーマニアはヨーロッパで一番インターネットが早い国です。マップを見ながらどこへでも行けるので、あとはアクションを起こすだけです。本当に簡単に経験を積むことができます。そこでできた縁をきっかけに、また次のチャンスもやってきます。その時、自分がなにをしたいのか？それをしっかり考えて冒険して欲しいです。ルーマニア社会ではコネクションが大きなチャンスになります。私もそれを基に時には先生、時には役者もやりました。ルーマニアのように日本人の浸透が浅いにもかかわらず、親日国だからこそ掴めるチャンスです。本当におもしろい国なので、飛び込んでみて欲しいです。

### ○渡航費補助について

この度は私の海外留学への渡航費を補助していただき誠にありがとうございます。お陰様でかけがえのない時間を過ごしました。この留学生活では、地味に感じることや面倒に感じることを徹底してやりました。英会話より単語を覚え、長文読解に集中するなど、自分がここで成長するために何が大切なのかを考えました。そして留学生活が始まって半年後に気づいたのですが、本当に大切なことはすべて地味で面倒に感じるものが多かったです。英会話や国内旅行など、挑戦や経験をして、自分の中にあるものしか使えません。だから自分の幅を広げる学習を徹底しました。英会話や海外旅行はいつでもできます。しかし、学生という若者の立場だからこそできる学びとは、社会に出る前に多様なジャンルと状況で、常に新しいことに飛び込むことでした。その広い世界の中で、普段使わない英語を練習しました。自分にとって、狭く深く学べることを見つけるために、浅く広く足を運びました。Facebook のイベントでビジネス英語を使う起業家懇親会に参加し、ビジネス英語を経験しました。それから徹底的にビジネス英語を部屋で勉強しました。経験と学習の割合は4:6です。どちらも量をこなすことが重要だと考えていました。その時、銀行で使うフレーズを知れば実際に銀行に行って使ってみました。時には自由に多言語パーティーに参加して、多くの人の趣味や生活、仕事の話を楽しみました。その後、インターネットで英語検索するなど、英語の幅を広げることに徹底しました。

ここで経験をしたことは日本でも勉強できます。しかし、ここでしかできない経験と掛け合わせることで唯一無二の経験をすることができました。ルーマニアで経験・挑戦×徹底した座学の組み合わせ。この勉強をし続けたからこそいま日本でも同じように再現して、世界で活躍できる人間になるために成長し続けています。それもすべては金銭的支援があったからこそ実現できました。まずルーマニアに行くことができなかつたら、この習慣に気づきませんでした。支援をしていただいたおかげで、私は将来大きく成長するための投資をすることができました。今満足して勉強する機会をいただけたことと共に、本当に感謝しております。ありがとうございました。

(様式 2)



黒海近辺の街 コンスタンツァ



神聖な山々のある森林浴の街 ブシュテニ



異世界居酒屋 内装がカッコイイと思い、少年心をくすぐられました。